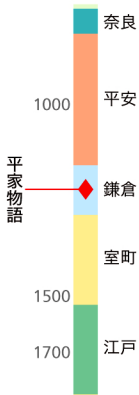
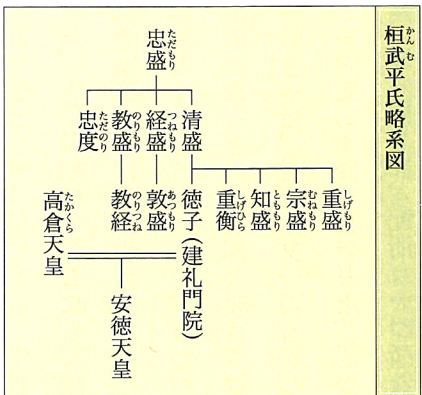


平家物語

俊寛

一一七七（治承元）年、栄華の絶頂にある平家一門の横暴を憎む人たちが、京都東山、鹿の谷にあった俊寛の山荘で、平家討伐の密議を行った。この陰謀は失敗し、首謀者の大納言藤原成親（二二八〜二七七）や俊寛たちは捕らえられた。藤原成親は配流地に送られる途中で殺された。成親の子成経、俊寛及び平康頼は九州の果て、鬼界が島に流される。成経と康頼は島内に熊野権現を祭って帰京を祈るが、俊寛は祈りに参加しなかった。康頼は和歌を書いた千本の卒都婆を海に流す。そのうちの一本が平家ゆかりの厳島神社に漂着し、平清盛（二二八〜二八二）を感動させる。翌年夏、娘の徳子の懷妊を契機に清盛は、鬼界が島の流人の帰京を許すことにする。しかし、俊寛は除外された。

御使ひは丹左衛門尉基康といふ者なり。船より上がつて、「これに都より流され給ひし丹波の少将殿、平判官入道殿やおはする。」と、声々にぞ尋ねける。二人の人々は、例の熊野まうでしてなかりけり。俊寛僧都一人残つたりけるが、これを聞き、「あまりに思へば夢やらん。また天魔波旬の、わが心をたぶらかさんと言ふやらん。うつつともおぼえぬものかな。」とて、あわてふためき、走るともなく、倒れるともなく、急ぎ御使ひの前に走り向かひ、「何事ぞ、これこそ京より流されたる俊寛よ。」と名のり給へば、雑色11が首に懸けさせたる文袋より、入道相国の赦し文取り出だいて奉る。開いて見れば、「重科は遠流に免ず。早く15帰洛の思ひをなすべし。中宮御産の御祈りによつて、非常の赦おこなはる。16しかるあひだ鬼界が島の流人、少将成経、康頼法師赦免。」とばかり書かれて、俊寛といふ文字はなし。礼紙17にぞあるらんとて、礼紙を見るにも見えず。奥より端へ読み、端より奥へ読みけれ



- 1 俊寛 一一七九（治承三）年。法勝寺執行。「執行」は寺務の責任者。「法勝寺」は、現在の京都市左京区岡崎にあった寺。
- 2 成経 藤原成経（生没年未詳）。丹波・少将。
- 3 平康頼 生没年未詳。平判官入道とも。
- 4 鬼界が島 現在の鹿児島県南西にある島か。
- 5 熊野権現 本社は現在の和歌山県にある神社。
- 6 卒都婆 上部を塔の形にした、細長い板。供養のために作る。
- 7 厳島神社 現在の広島県廿日市市宮島町にある神社。
- 8 徳子 平徳子（二五五〜二三三）。清盛の次女。高倉天皇中宮で、のちの建礼門院。この時、安德天皇が生まれた。
- 9 丹左衛門尉基康 丹波基康（生没年未詳）。

- 10 天魔波旬 人に罪惡を勧めて、修行のじやまをする惡魔。
- 11 雑色 摂政大臣家などに仕えて雑務を務める者。雑色。
- 12 文袋 手紙などを入れる袋。
- 13 入道相国 ここは、平清盛のこと。
- 14 重科は遠流に免ず 重罪は今までの遠流の刑によつて赦免する。
- 15 帰洛の思ひ 帰京の心構えや準備。
- 16 非常の赦 特別に罪をゆるすこと。
- 17 礼紙 本文を包んだ紙。上書きや追伸などを記した。